

# 八戸盲学校・八戸聾学校 協働 相談支援センター通信

2024年

7月号

## 相談支援センターの活動



本校相談支援センターは、地域の幼稚園や小学校、中学校、高等学校等に在籍する障がいのある幼児児童生徒を支援するために平成26年に設置されました。特別支援教育のセンター的機能を十分に発揮し、活動を進めていくよう努めてまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

相談支援センターの主な業務として、相談支援、三八地区特別支援連携協議会、地域支援の三つがあります。今回は、この中の三八地区特別支援連携協議会の活動を紹介します。

## 三八地区特別支援連携協議会の活動について

三八地区特別支援連携協議会は、発達障がいを含む全ての障害のある幼児児童生徒とその保護者に対する教育相談を含め、特別支援学校の地域における特別支援教育のセンター的機能を活用し、教育、医療、保健、福祉の関係機関が連携し、一貫した支援体制のさらなる充実を図ることを目的としています。本校相談支援センターは協議会の活動を円滑に進めるための事務局主管校となっています。

### 三八地区特別支援連携協議会



三八地区の連携機関は44機関です。この連携機関が一堂に集まり顔合わせをすることが連携の第一歩ということで、6月21日（金）八戸市総合保健センターにて連携協議会を開催し、総勢49名が集まりました。

八戸圏域障がい児・者支援連絡協議会会長 湖東正美氏より「不登校児童・生徒の支援」、青森県教育庁学校教育課小中学校指導グループ指導主事 工藤治氏より「幼保小連携の推進について」情報提供をいただきました。

「支援のリレーションについて」のテーマで、グループ協議も行いました。地区で現在行われている支援、今後あってほしい支援を考え、リレーション図にまとめました。

参加された方からのアンケートを紹介します。

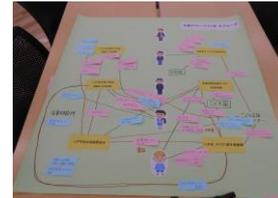
## <情報提供>

- ・不登校児童生徒への支援として、放課後等デイサービスなどの施設とも連携を深めていきたいと感じた。
- ・幼保小連携については、低学年児童の様子に変化していて、相談されることが多かった。スタートカリキュラム、アプローチカリキュラム、架け橋プログラムについて初めて知った。
- ・幼保小連携や情報共有の重要性について改めて考えることができた。小学校入学後外部の関係機関との連携が取りづらくなるように感じており、特別支援コーディネーターの重要性を実感した。



## <グループ協議>

- ・他機関の話聞き、取組や課題を知ることができて良かった。
- ・各ライフステージで係わった機関が、次の機関に情報をつなぎ、シームレスな支援が展開できると本人や家族も安心すると思った。
- ・時系列が異なる中、関わった関係機関をつなごうとする形は難しい場面もあったかもしれない。
- ・実際連携を取る際に役立つ情報が得られたので良かった。



第2回は、研修会を兼ねて12月6日（金）に開催いたします。八戸学院大学 短期大学部 幼児保育学科 教授 野口和也氏をお迎えして、御講演していただく予定です。

## その他

三八地区特別支援連携協議会では、今年度から県の事業「チームで支える特別支援教育校内支援体制充実事業」に取り組んでいます。小・中学校及び高等学校の通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒の特性に応じた学びを支援するため、地域資源を活用し校内支援体制の充実を図るとともに、通級による指導を担当する教員の専門性を図ることを目的としています。地区の特別支援連携協議会では、保護者や福祉施設に向けた理解啓発研修会を開催いたします。講師をお迎えしての講演会、パネルディスカッション等を計画中です。開催時期は1月を予定しています。

## お知らせ

教育相談は随時受け付けております。見え、聞こえ、ことば、発達等で気になる方への支援を行っております。まずは、お電話をしていただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。